



神苑の決意

主張

「神社新報」社説「軍事基地の精神問題」について

本号の内容【主張】「神社新報」社説「軍事基地の精神問題」について（木

川智）：1／【解説】在沖海兵隊「抑止力」論のリアリティ（西山徹）：3／【連載】アジア放浪記―タイ王国を見て皇国を尊ぶ⑤（仲村之菊）：5／【連載】『倭姫命世記』を読み解く⑤―日向三代について―（柳凜）：8／活動報告：10／イマドキの東アジア（みゃーだ）：14／談話室（高井七海）：15／花瑛塾日誌：16／編集後記：16

頒価：1部千円
（送料別途160円）

「神社新報」とは、神社新報社が発行する週刊の新聞である。昭和二十一（一九四六）年に発刊、当初は本社本庁の機関紙として本社

本庁内の「神社新報」編集部が発行していたが、翌年から本社本庁と密接な関係を維持しつつも独立し、神社界を代表する言論紙として、現在でも発行している。

創刊以来、各地の神社の動静報道を始め、葦津珍彦氏らが主筆を務め、神道指令からの神社界防衛、神道精神の発揚、政教関係の再検討、皇室の尊崇などの記事を書き載せる他、元号法制化、首相靖国神社参拝、日米安保、平成の大嘗祭など、その都度その都度の大きな

社会情勢に対し、神社界の立場から発信している。

社説「軍事基地の精神問題」

その「神社新報」昭和二十八（一九五三）年七月六日付社説は、「軍事基地の精神問題」と題し、いわゆる基地経済の問題と日本人の独立心について厳しい筆致で論じている。

なお、当該社説のいう「軍事基地」とは、沖縄など具体的な基地や地域を指すのではなく、日本全体の米軍基地を指すようだ。

「神社新報」当該社説は、終戦から八年を経

「神苑の決意」 主筆 木川智

過し、既に米軍基地の存在が基地周辺住民の間で「当たり前」のものとなり、さらに基地経済によって基地への依存を深めた当時の日本人に「もはや独立への意志も失はれてゐるのではないか」と疑念を呈している。そして「神々のみを畏れ、神々の外には何者をも恐れぬと云ふ、誇るべき不羈独立の精神」の必要性を説き、民族の滅亡は独立心の欠如より生ずると警鐘を鳴らす。

「基地経済」と一口にいつても問題は根深い。特に沖縄は沖縄戦による占領とその後の米軍施政権下にあつて、戦後復興と高度経済成長など本土経済から分離され、基地経済に依存